



会 長 就 任 に あ た り ご 挨 拶

日頃は桜地区自主防災協議会への多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございます。
桜地区も、いざという時に連帯感をもって行動がとれ、災害弱者を安全に避難させ、被害を最小限に留めるとともに、いち早く日常の生活に復帰できるように桜地区自主防災協議会が設置されています。今後も作成した防災マップを活用し、発災型の防災体制を確立して、万全を期していきたいと存じます。今後とも桜地区の自主防災活動にご協力を賜りますようお願いいたします。

自主防災組織とは、防災に関する住民の責務を果たすため、地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づいて自主的に結成する組織です。自主防災組織は災害発災時に、災害による被害を防止し軽減するため、実際の防災活動にあたる「実働部隊」として結成されます。

自主防災組織は、平常時には防災知識の普及や啓発、地域内の安全や設備の点検、防災訓練などを行います。災害が発生した場合には、情報を収集して住民に迅速に伝え、初期消火活動、被災者の救出や避難誘導、避難所運営などの役割を担います。日頃から自主防災組織として大きな災害に備えて活動を行うことが大切です。

自主防災組織の育成強化、地域の防災力向上のためには、防災の専門機関である消防署や地域の消防団との緊密な連携、協力のもとに取り組んでいくことが必要です。また、ボランティア団体、学校、事業所さまざまな組織やグループなどと連携しながら、地域ぐるみで防災力の向上を図っていくことが大切です。そのために組織として実施すべき活動を具体化した防災計画を策定し、迅速かつ効果的に防災活動を行えるよう、組織での役割分担を明確にしておくことが必要です。

自主防災組織が災害時に防災活動をスムーズに行うためには、必要な資機材の整備と誰もが扱えるように体験訓練などを通してマスターしておくことが大切です。近年、地域住民の連帯意識の低下がみられるとよく言われますが、良いコミュニティづくりを推進することが地域の防災力を高め、安全で住みやすい地域づくりに最も重要です。

今後とも、桜地区自主防災協議会にご理解ご協力の程
よろしくお願い致します。

桜地区自主防災協議会

会 長 伊 藤 隆 夫



裏面につづく

回 覧								

地域で備える

ご近所の助け合いが大切

阪神・淡路大震災で、家の下敷きになった人の多くを助け出したのは、家族や近所の人たちでした。大災害が発生した時には、都道府県や市区町村、消防、警察などの防災関係機関の対応が追い付かない場合も予想されます。

いつどんな時に、助ける側、助けられる側になるかわかりません。ふだんから近所つきあいを大切にするのが地域防災力の向上につながります。

最近、防災訓練に参加しましたか？

近年は、防災訓練も工夫がされていて、いざという時に訓練したことが本当に役立つよう、参加型の訓練が増加しています。町内会や自治会が中心となって開催する防災行事に積極的に参加して、避難や安否確認、救出・救護、炊き出しや避難訓練、避難所生活などを体験してみましょう。

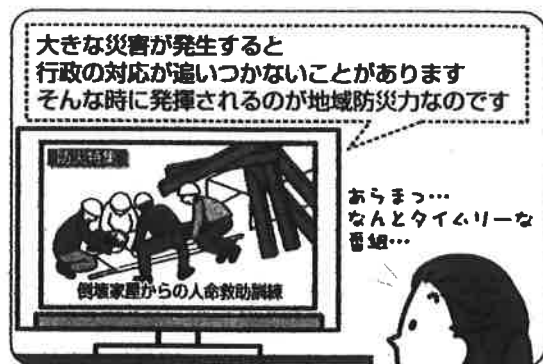
得意分野を生かして

自治体や自治会・町内会、学校、企業、ボランティア団体など、地域のさまざまな組織・団体が連携する体制を作り、維持することで、その地域の防災力は向上します。

ご近所に、災害の時に協力しあえたらいいなという団体があったら、積極的にコミュニケーションを図りましょう。

また、おまつりなどの参加した人が楽しめるイベントに、防災教育の紙芝居やゲーム、炊き出しなどを組み入れるのも、防災の輪を広げるポイントです。

減災マンガ



連携先にはどんなところがあるか、考えてみましょう

- 救護に使えるボールやジャッキを持っているところといえば?
- 地域のお年寄りの情報に詳しい人は?
- 資材置き場として場所が必要になったら?